

竹川病院 飯田 那保子(病棟クラーク)

功 績	病棟クラークとして医師や看護師などの医療関係者のサポートを行うことで新型コロナウイルスによるクラスター予防に貢献した功績。
推 薦 者	畑中看護部長
推 薦 理 由	医師や看護師が患者さんに良質な医療サービスを提供するのに欠かせない存在であり、彼女の先回りした目配り、心配りは他の職員の模範となることから推薦いたします。

内 容

飯田は病棟クラークとして就業し約4年になります。以前は、石川島記念病院でも3年程病棟クラークとして業務に携わっておりました。

病棟クラークは医療現場を支える重要な仕事です。病棟クラークがいることで、病棟にいる患者さんは快適になり、職員はスムーズに業務ができます。病棟クラークが関わる相手は、医師、看護師、患者さん、患者のご家族など多岐にわたり、コミュニケーションをとれる人物でないと成り立ちません。言わば、病院の印象を左右しかねないほど重要な顔でもあります。

新型コロナウイルス第7波が発生した際、患者さんにも陽性者が発生したり、職員が新型コロナウイルスに罹患したことに伴い、患者さんのコホートを速やかに行わなければなりませんでした。

そんな中、飯田は自身の職務範囲を超え、濃厚接触者の隔離を行う職員があわただしく動き回っていることで不安になっている患者さんに付き添い、病棟を何周も歩き、患者さんに声かけしてくれました。常に医療職、患者さんに目配り、気配りし、人手が足りていないところには率先して携わってくれました。看護師、ケアワーカーと一緒に感染拡大予防に貢献し、現在もクラスターは発生しておりません。

そんな飯田は、多くの人から頼りにされる唯一無二の存在であります。